

子ども環境ラボ レポート

vol.18

子どもも大人も、自分らしく人間らしく生きられる場の創造 ～心地よさを大切にしたい保育環境デザイン～

2022年 2月 19日(土) 14:00～15:45

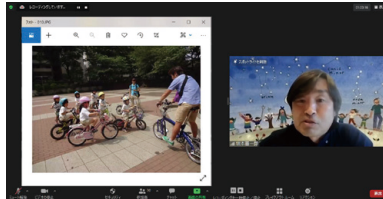
講師:坂本 喜一郎 氏

Zoomオンライン配信 申込者 27名

キーワード くつろぎ 居場所 地域資源 保育園

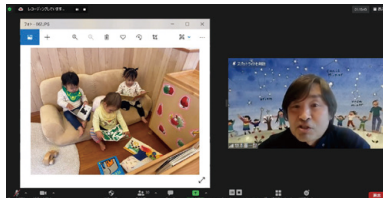
■はじめに

RISSHO KID'S きらりの園長になって 10 年目。きらり岡本は5つめの園で開園2年目。保育園は「施設」ではない。子ども大人も、自分らしく・人間らしく生きられる「空間」としてデザインする。



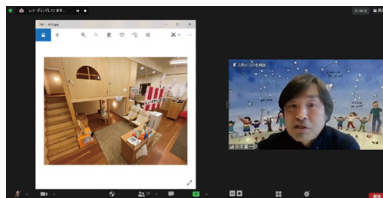
■保育理念を共有しながら、地域資源を活かした保育園を想像する

- 子どもも保護者も保育者も、みんなが幸せになるように
- ライセンスを獲得した子ども達との長距離サイクリング
- その場所にしかない魅力的な保育園
- 「いきいき」と「くつろぎ」のリズム:子どもがくつろぐ様子、学びの様子、隠れ家になるロフト
- 素の自分でい続けられる「居場所」の存在:ソファでくつろぐ子ども、枯れ枝ドーム、屋外の居場所
- 互いを「認め合える」関係性:子ども達が喜びを共有
- 「その場・空間・時間の流れ・地域性等」にあった保育:心地が良い縁側、凹みが重要、雨の日にしかならない園庭での遊び、各部屋のロフト、造形コーナーでの創造、とことん作ったら伝えたいくなる
- 気分を大切に:場所を選んでランチ、昼寝をしないでロフトで休憩できる、園庭ツリー電飾は地域に貢献、富士山が見える露天風呂



■心地よさを大切にしたい環境デザイン

- 園生活の中で大切にしたい姿:生活習慣を獲得、ダイナミックかつじっくりと遊ぶ、疲れやストレスを開放しくつろぐ→3つのバランスが必要
- 「生活スケジュール」と「生きるリズム=年齢発達に合わせたいいきいきとくつろぎの繰り返し」
- くつろぐ姿:疲れを休ませる→がんばった後の放心(くつろぎ)、ストレスから解放→登園後のくつろぎ、余韻を楽しむ→エネルギーを使った後
- きらりには廊下がない。くつろぎたい環境をつくる(アフォーダンス)
- くつろぐ場所:人的環境(膝の上)、ソファ、ロフトの中、ロッカーの間、段ボール
- くつろぐ姿勢:くつろぎやすい姿勢(クッションや床に寝転ぶ(→フローリング選びが大切)、ころがる)、距離を取る(すみっこなど)、隠れる、1人になる、気の合う仲間が集まる
- 先生もくつろぐことが大切
- くつろぎは今まで意識されてこなかったが、質の良い遊びを担保するためにはくつろぎが必要



講師紹介



坂本 喜一郎 氏

社会福祉法人 たちばな福祉会
RISSHO KID'S きらり 岡本 園長

玉川大学 文学部教育学科卒業/大妻女子大学大学院 人間文化研究科人間生活科学専攻修了
学校法人玉川学園 小学部 教諭及び幼稚部 教諭を経て現職
趣味は、アウトドア全般(磯遊び/登山/サイクリング)/温泉につかり&美味しいものを食べること!
保育士養成校非常勤講師(玉川大学/相模女子大学/和泉短期大学/洗足こども短期大学)



RISSHO KID'S きらり 岡本 園舎
現在 13 時間の長時間保育が実施されている保育園だからこそ、自分の生きるリズムでいきいきと生活ができ、いつでもほっとできる居場所を見つけることができる空間デザインになっています。



保育室には、いきいきと活動できる場とほっとくつろげる場の両方が必要です。各保育室にある2階建てのロフトは、イメージ豊かにごっこ遊び等を楽しめると共に、人目を離れてほっと一息できる素敵な空間となっています。

質問コーナー

■照明の使い方→施設のようにしたくない=真っ白な壁はいらない、穴開き吸音パネルを使わない、細幅のフローリングは使わない(床座に適した幅広フローリング)

■ロフト以外の園舎へのこだわり→子どものサイズ感が必要。天井の高さ、天蓋を使う。ロフトをつくって空間に凹凸をつける。S字の縁側でよどみをつくる。

■くつろぎの時間をどう取っているか?→各保育室にくつろぎコーナーをつくり、目が届くところでくつろぐ。設定保育をせず自分のリズムでくつろげる。全員で集まるのは朝の会と帰りの会のみで共有する時間。3歳児途中からお昼寝は選択性。体力がつくとお昼寝は不要になる。

■ランチの場所は?→気分で選べる。テーブル(配置はいろいろ)、カウンター、掘り炬燵式、いろいろな屋外(縁側やベランダ)外で食べるには免許が必要。コロナ前はバイキング形式で自分で量を決められる。心地よい食事の時間。

■設計者の袴田さんコメント

坂本先生とは 2012 年の最初の園から 5 園一緒につくっている。坂本先生からこうしたいという話があり、それを提案するとその先はおまかせ。室内手洗いの前のスペースをメインのスペースから切り離して部屋の無駄をつくらないという意見をいただき、それは今でも自分のテーマになっている。

部屋の配置:2歳が手前で5歳が2階なのは坂本先生の考え。0・1、2、3・4、5歳という構成。

■坂本先生回答

0・1歳を手前にするのは大人の都合。奥の方がくつろげるので奥に配置し、送迎する親に上の年齢を見てほしいという意図もある。)5歳は園児の憧れの存在。先生と5歳は雲の上の存在だから上へ。2~5歳は連続性が大切。2歳から3・4歳がいつでも見られるようにしている。この配置は5園の集大成。